

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4090600083		
法人名	医療法人 心愛		
事業所名	グループホーム ビートルズ (2階・3階)		
所在地	〒805-0007 福岡県北九州市八幡東区白川町7番43号		093-663-8880
自己評価作成日	平成24年08月20日	評価結果確定日	平成24年10月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>オープンして満1年、徐々にであるが全ての部分において落ち着いてきた状況で、今後はQOLの部分で充実が図れる様に努めている段階で、現在特に力を入れている点としては、月例にしている音楽療法である。入居者の皆さんの様子を見て毎月音楽療法が行われる日が楽しみで、多分な良い影響が起きていると思われる。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		093-582-0294
訪問調査日	平成24年10月09日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>八幡東区郊外の丘の上の住宅地の一角に、3階建て2ユニットのグループホーム「ビートルズ」がある。介護理念とそれを実現するための6つのキーワードを掲示し、管理者と職員が理解し、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供は、利用者や家族との深い信頼に結び付いている。利用者一人ひとりが町内会に加入し、地域の行事や、市民センターでの活動が始まり、1階には、広々とした地域交流スペースを設置し、地域の会議やレクリエーションに、活かす取組を目指している。また、音楽療法では家族の参加も増え、利用者が自信を取り戻し、家族の喜びは大きいものがある。母体医療法人は長年、地域医療に貢献し、そのノウハウを活かした介護サービスは、地域密着型グループホームとして開花し、地域における介護事業の拠点として、活躍が期待される「ビートルズ」である。</p>
---

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務の中で常に理念を共有し、実践に繋げて行けるよう努めています。	「感謝・感激・感動・喜び・地域に根ざす介護」の4つの介護理念と、それを実現するための6つのキーワードを掲げ、理解し、共有しながら、職員一人ひとりが利用者の目線に立って、介護サービスの提供が実践出来るよう、日々努力をしている。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者全員町内会に所属し、地域の行事や交流を目指しています。	近隣は高齢者が多く、地域住民と利用者との交流が困難ではあるが、市民センターで行われる独居高齢者の集まりに管理者が参加したり、子供会の古紙回収への協力、ホーム1階の市民サロンで行う音楽療法への参加を呼びかける等、町内役員の協力や職員の頑張り、少しずつ交流が始まっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お声掛けは行っているものの、なかなか地域貢献に結びついていない所が実態です。今後も継続して発信して行こうと考えております。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで会議を持ち、会議で出ましたご意見は可能な限り反映させてサービス向上に努めています。	会議は2ヶ月毎に開催し、地域代表や行政職員、関係者が参加し、ホームの現状や取り組み、課題等報告し、参加者から意見や質問、情報等を出してもらい、活発な意見交換の場となっている。出された意見は検討し、出来るだけホーム運営に反映されるよう努力をしている。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事がある都度、市の窓口で連絡を取り、情報を得たり、積極的に協力関係を築けるよう取り組んでいます。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情や取り組みについて理解してもらい、アドバイスをもらっている。また、行政担当窓口に出向き、電話等でわからない事や困難事例について相談し、協力関係を築いている。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員身体拘束の意味を知り、拘束の無いケアの取り組みに努めています。	研修会に参加し、報告を兼ねた内部学習会で職員全員が学び、身体拘束がもたらす弊害を理解した上で、拘束をしないための介護サービスのあり方について話し合い、実践に向けて取り組んでいる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外研修等で虐待の防止に関して学習をしてもらい、スタッフ一人ひとり意識を持って努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加し、制度を理解した上で実践に向けた取り組みを工夫しています。	現在、制度を活用するために1名の方が申請中である。職員は、内部、外部の研修会に参加し、理解を深め、利用者や家族が制度を必要とした時、いつでも支援出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際ならびに制度等の変更があった場合など、利用に関して納得が出来る様に努め、説明を行っています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	わかりやす場所に意見箱を設置し、またご面会で見えられたご家族に対して運営等に対するご意見などをお聞きし、運営に反映させています。	家族の面会が多く、管理者、職員は必ず声をかけ、意見や要望等を聞き取っている。月に1度の音楽療法に参加される家族同士の横の繋がりは少しずつ出来つつある。面会が難しい家族にとっては、「ホーム便り」や「ふれあい通信」での、利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態の詳細な報告は、大変ありがたいと好評を得ている。	悩みや不安、心配事等を、家族同士で話し合える家族交流会等の機会を設け、家族同士の繋がりが、家族と事業所との信頼関係を深め、さらなる介護サービスの向上に繋げる取り組みを期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の定例のミーティングやその他の場面で意見や提案を聞く機会を設け日々の業務に反映させています。	毎月定期的に、職員会議を開催し、カンファレンスやミニ勉強会等を一括して実施し、「利用者のために」を一生懸命考える職員からは、活発な意見が出され、充実した会議になっている。管理者は、職員の意見を出来るだけホーム運営に反映させる努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフへの環境整備や条件整備に努めています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては幅広く個人を見極めた上で対応しており、年齢や性別等で判断は行っていません。また、スタッフ個人個人の意見を尊重した上で可能な限り自己実現の機会を設けています。	職員ロッカーや更衣室を整備し、勤務時間の調整や希望休の取り入れ等、職員が働きやすい環境を整備している。また、書道、あん摩、絵等、職員の特技を活かしながら、向上心を持って生き生きと勤務出来るよう配慮している。職員の採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄ややる気を優先している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外の研修の機会を設けたり、定例のミーティングにて人権教育や啓発活動の持つ意味を知ってもらうための取り組みを行っています。	外部の人権研修を職員が交代で受講し、報告会を兼ねた伝達研修で、職員全員に理解してもらっている。ミーティング等で、日常的な言葉遣いについて気をつけるよう話し合う等、利用者の人権の尊重に向けての取り組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりの状況状態を把握した上でOJTに努めています。また、研修の機会を設けています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等に参加し、協議会主催の研修等に参加させることにより交流やネットワークの大切さを学習してもらっています。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	提供された情報を十分に把握した上で、常に傾聴する姿勢で早期のラポール関係を築けるように努力をします。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対して施設利用の上で心配要素がある場合は、十分に聞き取り、良好な信頼関係作りに努めます。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等を通じて現状把握を行い、また過去の経歴等からも個人の人物像を見極め、快適かつ安全な支援が出来るよう努めます。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ目線で対応を行い、暮らしを共にする者同士の立場関係を築くよう努力をしています。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族の意見を聞き取り、一方的なケアにとどまらないよう配慮し、共に支えていく関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に電話や面会が出来る様に努めています。	友人知人、地域の方、遠い親戚等の面会があり、管理者や職員は訪ねやすい雰囲気作りを心がけ、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、利用者がグループホームに入居してから親しくなった利用者同士、職員、地域の方とのコミュニケーションを通じた、新しい馴染みの関係も大切にしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループワークを活用したり、利用者同士が関わったり、支え合ったり出来る様な環境作りが出来るよう努力をしています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を切らないために、相談や支援に対する相談の窓口を担保し、全てのご家族には伝えていきます。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の観察や会話の中で入居者の意向や希望の把握に努め、特に確認困難な利用者様に関しては表情等の非言語等で確認を行うよう努めている。	職員は、利用者の表情や会話の中から、意向や希望を汲み取っている。重度化に伴い、意向表出の困難な利用者に対しては、家族の協力や過去の記録をもとに、利用者が少しでも安心して穏やかに暮らせるよう、細やかなサービスの提供に努めている。利用者の「笑顔が増えた」との、家族からの声が職員の励みになっている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時収集した情報はもちろんのこと、日々の会話の中や家族の面談で知り得た情報に関しては、ミーティング等でスタッフ全体で共有している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の中で一日の過ごし方や有する能力の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者中心でのカンファレンスを行い、全てのスタッフの意見の集約やモニタリングを実施して介護計画を作成している。また、状況によっては面会時や電話入れ等で確認した意見も計画に反映している。	毎月カンファレンスを行い、職員全員の意見を参考に利用者や家族の意向や希望を取り入れ、6ヶ月毎に介護計画を作成している。また、利用者の状況変化に合わせ、家族や関係者と相談し、その都度介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察事項を介護記録に記載することはもちろんのこと、緊急的に情報共有を行うことが必要な物やヒアリハット等のその場面でのスタッフしか知り得ない内容等を連絡ノート・ヒアリハット表に記載して情報の共有を図っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には柔軟な姿勢にて対応を行っている。病院受診や外出等の援助に関しても本人やご家族の状況を十分に踏まえて多機能化に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在のところ地域資源との協働や参加の事例はないが、機会や状況によっては支援を行いたいと考えている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体医療法人の協力医療機関を選択する利用者や家族がほとんどで、皮膚科、眼科等、専門病院には、職員が同行し受診の支援をしている。訪問看護を取り入れ、利用者が安心して、状態や目的に合った医療を受けられる体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者個々の細かな情報も提供し、適切な受診や看護が受けられるよう支援を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態が重篤な状況にならない様、早めの受診を心掛け、万一入院をしても早めの退院が叶うよう病院との関係作りを行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだまだ重度化や終末期に向けた方針の共有と支援にまでは行き着いていない。	医療連携体制を確立し、利用者の重度化に向けた体制が整いつつあるが、家族や関係者との話し合いや方針の共有等、今から取り掛からなければならない部分も多い。今後の課題として、利用者の重度化に向けた支援体制の確立を検討中である。	ホームで出来る事、出来ない事等を明示したターミナルケアの指針を作成し、利用者や家族の承諾を得て、職員全員と話し合い、重度化に向けた方針を共有し、利用者が安心して終末期を迎える事が出来るよう、今後の取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間1回、消防署を招いての蘇生訓練やAED取扱い訓練を実施したり、内部研修等で定期的に訓練を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害における定期的な訓練は実施している。また、地域との関係も構築してきている。	消防署の指導を得て避難訓練と、自主防災組織による夜間想定訓練を実施し、地域における防災訓練と合わせ、非常事態に備える体制を整えている。また、ライフラインが使用不可の状態、非常食、飲料水、毛布等、非常用備品の準備も検討中である。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念でも上げている通り、尊厳とプライバシー保護を第一に、常日頃の対応には心掛けている。	職員は、利用者と家族のような関係を築き、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない介護サービスの提供を実践している。また、個人情報の記録や職員の守秘義務に対する取り組みも徹底している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で意思の表出が出来る方はもちろんのこと表出出来ない方に関しても選択肢を提示し表情等で自己決定出来る様に努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々職員の都合や時間でペースを押し付けるのではなく、利用者個々のペースに沿って支援を行っている。また、希望に沿って散歩や買い物等も流動的に対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい生活が出来るよう、その方の好みや希望に沿って支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を満足して頂いていると思います。また、利用者で準備や片付のお声が掛かったら積極的にお願いをしています。	カロリー計算された配食サービスから食材を購入し、職員が交代で調理した料理を、利用者と職員が一緒に見守りをしながらの食事風景である。また、利用者の希望を取り入れた献立による料理や外食の希望等も聴きながら、食事が楽しいものになるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個人々の状況に合わせて支援を行っています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは重点的に支援を行い清潔保持に努めています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立に向け一人ひとりの習慣を頭に置き対応を行っています。また、習慣化を促すため時間を確認しての声掛けや誘導を実施しています。	出来るだけトイレでの排泄を支援している。利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせた細やかな声かけや誘導を行い、職員同士で気づきや意見を交換しながら情報を共有し、職員が一丸となって排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として食材に繊維質の物や乳製品を提供し、予防に努めています。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的にはゆきよくの曜日を設定し、スケジュールに沿って対応を行っています。気分や体調に合わせてスケジュールを細目に調整し実施しています。(基本週3回実施)	入浴は、基本週3回と決めているが、利用者の気分や体調に合わせて、日程を変更したり、毎日入浴することも可能である。また、入浴が嫌いな利用者には、職員が交代で声かけし、無理強いせず、シャワー浴等柔軟に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中リビングで居眠りや眠たそうにされている方には自室にて休まれる様促し、また夜間帯であれば安眠が出来るようエアコン調整を行ったりして気持ちよく休まれる様支援をしています。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員内容を確認し、服薬の支援・症状の確認等に努めています。		



自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ役割や楽しみごとに対して支援を行っています。また季節毎の飾り付けや書道等の趣味的な支援を行い気分転換を図れる様努めています。	
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況に合わせ気分転換に散歩に出掛けたり、行事として戸外に車を利用して外出したり行っています。また、ご家族の協力も得て出かける様な支援も行っています。	弁当持参のドライブや、季節の花見、バスハイク、日常的な散歩等、利用者が生き生きと過ごせるよう支援している。また、行事参加や家族の協力を得て外出支援を行う等、利用者の生きがいに結びつく外出に取り組んでいる。
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員が施設管理である。しかし、数名の方で自己管理の出来る方もおられ、お金の所持や使うための支援を行っても使われていないのが実際のところである。	
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の援助を行ったり、外部から掛かった電話を取り次いだりの支援はおこなっている。	
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様な飾り付けや写真を掲示して回想が出来るような工夫を行っている。	1階に広い地域交流スペースを確保し、2階、3階が2ユニットのグループホームであるが、利用者の習字や職員と合作の季節感溢れた壁面の飾り、ぬりえ等の作品を各所に掲示し、落ち着いた家庭的な環境を演出している。また、リビングルームには畳敷きのコーナーがあり、穏やかに過ごせる共用空間となっている。
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況や入居者同士の関係を見ながら、ゆっくりと過ごせる工夫をしている。	
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談しながら、使い慣れた物を持って来てもらっている。また、居室に家族の写真等を飾ってもらっている方もおられる。	居室は、家族の協力を得て、馴染みの家具や仏壇、家族の写真や手作りの作品を持ち込んでもらい、温かい家庭的な雰囲気作りを心がけ、利用者がそれぞれ穏やかに過ごせる居室となっている。
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方から知恵をもらったり、スタッフから働き掛けたりして自立した生活が出来る様な工夫をしている。	